

男女共同参画センターはあもにい 第2回運営審議会

平成27年1月27日(火)

1. 日時 平成27年1月27日(火) 10時~12時

2. 場所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F会議室

3. 出席者 運営審議委員6名

清重尚弘委員(会長)、八幡彩子委員(副会長)、(50音順)伊藤一敏委員、
坂口京子委員、重村和征委員、中山敏子委員

オブザーバー 熊本市企画振興局市民協働課男女共生推進室 藤川潤子(室長)

事務局 代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社代表取締役)

上村浩二(九州総合サービス株式会社専務取締役)

構成企業B 小山雄治(熊本産業文化振興株式会社常務取締役)

構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミュージズプランニング代表取締役
兼はあもにい館長)

加島裕士(はあもにい副館長)

総務管理課:吉田寛、山田晋、吉田稀世、反後文代、富岡若菜、田中美帆、山
本知佳

4. 会次第および議事内容

(1) 開会

(2) 開会あいさつ(館長:藤井宥貴子)

(3) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)

(4) 審議員および出席者紹介

(5) 審議

議題1 平成26年度運営状況の報告

議題2 平成26年度実施事業の報告

議題3 平成27年度事業の編成方針について

議題4 その他

5. 議事録

(1) 開会 10時より

(2) 開会あいさつ(館長:藤井宥貴子)

藤井:皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、審議会にお越しいただき、誠にありがとうございます。早いもので、私どもが指定管理者として、はあもにいの管理運営に携わるようになり、もうすぐ3年目が終わろうとしております。

貸館も男女共同参画推進の事業も、ようやく先のことが見えるようになってきたかなと思います。試行錯誤しながらでしたが、スタッフ一人ひとりが、ハプニングがあってもほぼ落ち着いて判断できるようになってきたと実感しているところです。

4年目に入る次年度は、これまでの反省や経験を生かしながら、一步進んだ形での事業展開を意識していきたいと考えています。具体的な事業方針は、後ほど詳しく説明をさせていただきますが、現状に甘んじることなく、外に向けての情報発信と連携をさらに強化していくことにより、「はあもにい」「男女共同参画」についての周知徹底を図ることに注力していきたいと考えています。

また、初年度からの重点課題であるテレワークについては、今年度まで十分に取組むことができている状態です。思い切って専門家のアドバイスや先進地の事例を参考にしながら、さらに強化していく方針であります。ほかにも細々とした課題もありますけれども、今年度はその課題に真摯に取り組みながら、民間の視点で「変わった感」を打ち出していくチャレンジの年にしたいと考えています。

女性の活躍推進が国の政策として拍車がかかる中、私たちもこの追い風を生かしながら、誰もが知っている「はあもにい」、本当に支援を必要とされる方の心のよりどころになる「はあもにい」になるべく、スタッフ一同頑張ってまいりたいと思っております。本日は皆さまの忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。ありがとうございます。

進行（山田）：ありがとうございます。次に、はあもにい管理運営共同企業体の代表、尾池千佳子よりごあいさつ申し上げます。

（3）共同企業体代表あいさつ（九州総合サービス株式会社代表取締役 尾池千佳子）

尾池：皆さま、おはようございます。本日は大変お忙しい中、はあもにい運営審議会にお越しいただき誠にありがとうございます。皆さま方には日頃より、はあもにいの運営に対して多大なるご支援、ご協力を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。

早いもので、私たちが指定管理者となってから、この4月で4年目を迎えることとなります。その中で、副館長の加島、総務管理課係長の山田が、3月末をもって異動することになりました。年末には地域交流会を行い、少しずつ地域の方々から受け入れられている様子が伺えました。軌道に乗り始めたところで二人が抜けることは、少々心配なところもありますが、しかし、後任者には新しい風を吹き込んでいただければと考えております。マンネリ化に陥ることなく、2年後の更新に向け、お客さまの期待を超えるおもてなしの提供を心がけ、今後もスタッフ一同頑張っていきます。どうぞ、今年もまたよろしくご願ひいたします。本日はありがとうございます。

進行（山田）：では、審議委員および出席者の紹介を私からさせていただきます。

出席委員紹介

欠席者紹介

オブザーバー紹介

これから、審議を進めます。審議につきましては、会長の清重先生にお願いしたいと思います。では、よろしくお願ひいたします。

(5) 審議

議長 (清重会長) : 皆さんよろしくお願ひいたします。その前に、議事録の署名者をお2人、今回もお願ひしたいと思います。もし事務局でお心積もりがあれば、指名していただけますか。

進行 (山田) : 皆さんからご希望が特になければ前回同様に、伊藤さんと坂口さんにお願ひするのは、いかがでしょうか。

議長 (清重会長) : (2名了承) はい、では拍手をお願ひいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、議事に入ります。議題の1の平成26年度運営状況の報告をよろしくお願ひいたします。

<議題1 平成26年度運営状況の報告>

吉田 : 私から、議題1の運営状況についてご報告させていただきます。

はあもにい管理運営共同企業体は、九州総合サービス、熊本産業文化振興、ミュージックランニングの3社からなる共同企業体です。スタッフは館長・副館長をはじめ39名。総務管理課、事業課、受付係、幼児室、情報資料室、設備係、清掃係、駐車場係の7つの部署で運営を行っております。

実績状況について、まずは年度別の利用者数の推移をご紹介します。4月から12月の9カ月間で比較しております。利用者数は、24年度が9万5164人、25年度が9万9670人、26年度が11万695人。初年度から25年度にかけては104.7%、25年度から26年度は111.1%、24年度から26年度は116.3%と、年々増加の傾向にあります。

利用率も同じく4月から12月の9カ月間で見てみますと、24年度が48.8%、25年度が50.8%、26年度が54.8%。24年度と26年度を比べるとプラス6%で利用率が上がっております。

稼働率は24年度が28.8%、25年度が29.1%、26年度が32.6%で、25年度から26年度にかけて3.5%増えております。毎年説明しているのでご承知かと思いますが、稼働率は、利用のあった区分の数字を有効利用区分数(1日3区分×30日)で割っております。

情報資料室は利用者数と貸出数で比較をしております。利用者数で見ますと、24年度は3603人、25年度は4110人、26年度は4888人。初年度から25年度は114.1%、25年度から26年度は118.9%と増えております。

貸出も、9644冊、1万1651冊、1万4783冊ということで年々増えておりまして、24年度と26年度で比べますと、153.3%で約5割増しという状況です。情報資料室を利用される方が大変増えていること、貸出している本の数が増えていることが見えてくるかと思えます。ちなみに貸出冊数とは、本とビデオ、DVDの貸出総数です。

駐車場の利用状況です。こちらも9カ月間で見ますと、24年度は2万8308台、25年度は2万8838台、26年度は3万748台。24年度から25年度が101.9%、25年度から26年度が106.5%。24年度と26年度を比較しますと108.6%で、会館の利用者の増加に伴い、駐車場の利用も増えていることが分かります。

続いて、貸館業務における取組事項について8つ上げております。まず、①気持ちのいいあいさつ、分かりやすく丁寧な説明。②館内および駐車場の案内板の整備。③有料、無料駐車場の有効利用。④情報資料室の環境整備。⑤安心感のある催事運用。⑥快適な貸室環境の提供。⑦託児利用者に対する安全・安心な託児の提供。⑧コワーキングスペースの提供。

具体的に、1番目の気持ちのいいあいさつについては、来館者に「また利用したい」と思っただけのような接客を心がけております。

2番目の案内表示については、館内や駐車場の案内板や看板の設置を行っております。電柱広告もその一つです。無料第三駐車場に曲がるところに設置しております。

3番目の駐車場の有効利用については、車の混雑状況を予測・確認するため、週一回ミーティングを行っております。ホール・貸室利用状況に基づいて、駐車場の利用状況を予測し、人員を配置しております。

4番目の情報資料室の環境整備については、ソファやテーブルなどの配置交換を行い、利用者が快適に時間を過ごしていただけるような環境整備を行っております。結果、利用者の増加につながったのではないかと思います。

5番目の安心感のある催事運用については、事業課スタッフがホールを利用される方と事前の打ち合わせや内容確認を行い、利用者満足度の高い催事の実現を目指しております。利用者の皆さんに「催事を実施してよかった」と思っただけのように事業課を中心に努力しております。

6番目の快適な貸室環境の提供については、設備係が細やかな空調の温度管理を行い、お客様の要望に沿った環境づくりを心がけています。

7番目の託児については、「託児カード」で、事前にいろいろな情報を出していただき、保育士の資格を持っているものが、安全・安心な託児を日々行っております。

最後に4階のコワーキングスペースの提供についてです。現在の登録者約50名のうち2名はほぼ毎日通われています。27年度コワーキングスペースの運用については、再度検討をしていっているところです。

駆け足で説明しましたが、私からは以上です。

議長（清重会長）：吉田さん、どうもありがとうございました。この段階で何かご質問など、ございますか？ 審議委員の皆さん、なければ、次に進んでよろしいでしょうか。では、議題の2の平成26年度実施事業の報告をよろしくお願いいたします。

<議題2 平成26年度実施事業の報告>

田中：今年度開催した主な事業をご紹介します。

事前に報告資料を送付しており、一度そちらをお読みになっているかと思います。時間の関係上、特にお伝えしたい内容をご報告させていただきます。また、事前に送付している資料は事業番号順（実施月順）で記載しておりますが、こちらの報告では事業分野ごとにまとめてご報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、男女共同参画啓発事業についてご報告いたします。男女共同参画啓発事業には、①男女共同参画に関する基本的な講座、②ワーク・ライフ・バランスの推進に関する講座、③これからの男性の生き方に関する講座、④女性に対する暴力防止に関する講座、⑤市民グループ企画による男女共同参画推進に関わる講座が指定されています。

男女共同参画に関する基本的な講座として、6月の末に男女共同参画週間イベントとして「女性の貧困」をテーマに、ワールドカフェ形式を用いて意見交換を行っております。ワールドカフェ形式とは、『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に別れたテーブルで自由な意見交換を行い、その後、他のテーブルとメンバーを変更して意見交換を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる手法の一つです。その結果、弁護士、支援員、学生、教育関係などたくさんの立場の参加者がいる中、それぞれの立場からたくさんの意見が出てきて、参加者の意識がとても高まった講座となりました。

その他、男女共同参画に関する基本的な講座として、夏休みに、はあもにい探検隊を行いました。こちらは昨年も行っており、すでにご存じかと思いますが、はあもにい館内を探検しながら男女共同参画について学ぶことができるプログラムです。参加年齢層が小学校低学年から高学年までと幅広く、男女共同参画という言葉自体「難しかった」と感じる子どもも少なくありませんでした。しかし子どもを対象にした男女共同参画に関する講座はとても貴重な機会であると考えておりますので、次年度も形を変えながら学習機会を作っていきたいと考えております。

次に紹介するのは、ワーク・ライフ・バランスの推進に関する講座です。今回、尚絅短期大学の学生に対して、女性のキャリアとワーク・ライフ・バランスの講座を行いました。女性のキャリア形成について考えていただくきっかけになったと考えております。また、この日感じたこと、講座の中で知り得たことで、「カジダン、イクメン、イクジイ」または、題にもある、「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに、川柳を作成するワークも行いました。たくさんの作品を提出していただきました。

その他、アジアプランニング株式会社への出前講座も実施しました。講師として当館の館長、藤井が出向き、直接ワーク・ライフ・バランスの重要性を伝えることができた、非常に重要な機会だったと考えております。また、市内の会社の現状を垣間見る機会にもなったと考えています。

項目の一つ、これからの男性の生き方に関する講座。当館では毎月、親子を対象に「よんでよんでのかい」という読み聞かせの会を行っております。その催しの対象者を男性の保護者と子どもに絞り、「パパと一緒に！よんでよんでの会」を実施しました。本を読み聞かせるだけでなく、コツも紹介し、大変好評でした。講座後は参加者の中から希望を募り、パパの読み聞かせ隊も結成しました。はあもにいフェスタでも、2日間、パパの読み聞かせ隊の時間を取って、活動していただきました。今後も当館の出前講座に隊員として関わっていただくなど、活動に広がりを持たせていきたいと考えております。

続きまして、女性に対する暴力防止に関する講座。熊本県警察本部県民広報課と一緒に、性暴力被害者のためのワンストップ支援センター設置に向けての公開講座と、離婚による傷つきを抱えた女性を対象にした講座、それと高等学校へのデートDVの出前講座を実施しました。ワンストップ支援センター設置に向けての講座は、今月の18日、21日、24日に医療関係者向けの研修会を終了いたしました。いずれも必要な人に必要な情報が届くことが大変重要な事業でありまして、当館でも各機関と連携を取り、今後も実施していきたいと考えている事業です。

市民グループ企画による男女共同参画推進に関する講座。本年度4つの企画を採用しております。1つ目が「隣る人」自主上映実行委員会による映画「隣る人」の上映とアフタートークです。この映画は、熊本出身の映画監督が児童養護施設の日常を追いかけたドキュメンタリー作品です。時期を男女共同参画週間に合わせ、「女性の貧困」について考えるワークショップとの連動性も考えたことで、取り組みに厚みが出た企画となりました。

2つ目は、YMCA フィランソロピー協会による映画「日本一幸せな従業員をつくる」の上映会と監督の講演会。非常に感動的な内容で、いろいろな方々のご意見・ご感想をいただきました。

3つ目は公益財団法人全国友の会、熊本友の会による「パパと子のクッキング ～杵と臼を使ったみそ作り講習会」です。こちらは、当館に来館が少ない男性に向けての企画で、たくさんのお父さん、家族が参加しました。

4つ目のDV教育プログラム男性編は、9月から継続実施中です。現在、次年度の市民グループ企画も、今月末締め切りで募集中です。

続いて社会参画支援事業に移らせていただきます。こちらは①就労支援事業と②能力開発事業、③両立支援と分かれております。

就労支援事業は、資格取得講座の実施、起業家支援に関する講座、再就職準備に関する講座と項目が分かれております。

資格取得講座に関しては、今年度は日商簿記検定3級対策講座、ワード検定3級対策講座、MFA国際認定資格取得講座などを実施しています。MFAは、国連の関連組織、世界安全機構公認の応急救護プログラムを学ぶ講座です。単なる救命方法にとどまらず、救急の場合の行動方法などをシミュレーションにより何度も訓練いたしました。参加者の中から、とても実践的で、「今後も繰り返し参加したい」「学んでいきたい」という意見が大変多くございました。

今回初めて実施した介護事務検定対策講座。近年、介護施設の数、またニーズが増えているということで、そこで働く事務員の資格取得を目指して取り入れてみました。しかし実際は介護の対象となる親御さんを持つ年代の方々が多く参加された講座となりました。

パソコンの講座、エクセル表計算3級対策講座。こちらも大変人気の講座です。今回は、合格率が94%と非常に高かったです。電話応対技能検定3級対策講座、「もしもし検定」と呼ばれることもあります。電話応対のみならず、いろいろなお客さまに対する接客マナーであるとか、コミュニケーション、アサーションも含めた、就職する方に対しても大変有益な資格となっております。当館でも大変重要な資格と考えて、館内のスタッフも受験した者がいます。続いて調剤事務技能認定2級資格取得講座。こちらは1月、2月、3月と継続して実施しているところです。

起業家支援に関する講座に移らせていただきます。わたしstyle起業講座を行いました。「自宅カフェ」「自宅サロン」など、身近な空間、例えば自分の家を使ったり、小さなスペースを使ったりして「スモールスタート」起業を目指している方、コミュニティづくりに興味・関心がある方を対象に実施しました。連続して行う講座は、途中で出席者数が伸び悩むケースが多々ありました。今回は7回の講座でしたので、途中で昼食交流会などを組み込んで、受講生の交流を深める工夫も行いました。結果的に講座後半ではさまざまな情報交換、ネットワークが出来上がっておりました。この中から希望者は、はあもにいフェスタの開催時にチャレンジショップの出店を企画・募集し、4組5名が参加されました。雑貨販売、カラーセラピー、ベビーマッサージ、アロマリップといったチャレンジショップを展開し、いろいろ学んでいただいたようです。

次に、再就職に関する講座。「仕事と子育て私らしく両立 はあもにいお仕事カフェ」と題し、2月に実施予定です。対象者は就職、再就職を考えている子育て中の女性。就職に対する不安や悩み、その他いろいろな不安を払しょくしていただくことを目的としています。こちらは育児中、育休中の方々も来られるということで、託児年齢を引き下げました。また参加しやすいスタイルを作るため、少人数の15名の定員、2回講座としました。現時点で定員に達しております。キャンセル待ちを受け付けている状態です。

能力開発事業は、キャリアアップに関する講座、コミュニケーションスキルアップに関する講座、この二つに項目が分かれています。

キャリアアップに関する講座は、昨年好評だった音声起こし講座を今年も実施しました。

現在、内閣府の「平成 26 年度地域における女性活躍推進モデル事業」として採択された事業を行っております。特に皆さまに詳しくお知らせしたい事業となっておりますので、後ほど担当の吉田稀世から詳しくご説明をさせていただきます。

能力開発事業の一つ、コミュニケーションスキルアップに関する講座。既に一つ、昨年行った前半の運営審議会にてマクドナルド直子さんの講演会をご報告済みですが、後半はもう一つ、「自分にムリをさせない、上手なコミュニケーション～アサーションを学んでみよう～」という講座を行いました。台風接近があったため、一度日程を変更して実施しております。

両立支援は、親と子、父と子の料理教室および夏休み、クリスマス等の親と子のふれあいに関する催しの 2 項目があります。父と子の料理教室では、6 月にイタリア料理店のシェフに講師を依頼し、ジャガイモのニョッキなど、子どもが手伝いやすい調理工程のメニューを実施しました。お父さんと小さなお子さんが一緒に参加され、コミュニケーションを深める様子が見てとれました。

7 月には熊本県つばさの会熊本市支部に講師を依頼し、「くまもとの野菜を食べよう」をテーマに、地元の食材を家庭料理に取り入れる講座を実施しました。料理教室は大変人気があり、たくさんの親子、今回はお父さんとの参加も見られました。楽しいコミュニケーションの場をつくることができ、お父さんが家事に参画するきっかけができたのではないかと考えています。

親と子のふれあいに関する催し。まず一つは、「心とカラダをリフレッシュ！ 親子 3 B 体操」と題し、日本 3 B 体操協会公認指導士、安藤智江子さんに講師をお願いして、おやこ 3 B 体操を実施しました。こういった事業における保護者の参加は母親がほとんどですが、3 名の父親の参加がありました。意欲的に取り組んでいただき、場が大変盛り上がりしました。

その他、黒髪地域コミュニティセンターにて、「よんでよんでのかい」の出張講座を行いました。普段は幼児室にて、未就学前の幼児に 20 分ほどの会を行っておりますが、今回は小学 3 年生以下のお子さんとその保護者の方を対象にし、約 1 時間実施しました。参加者同士のふれあいはもちろんですが、黒髪校区子育てネットワークとの連携、また子どもを含める近隣の方々へ、「熊本市男女共同参画センターはあもにい」という名前、存在を少しでも知っていただく機会として大変意義がある講座だったと考えております。

続いて、当館の一大イベントはあもにいフェスタに関してご報告いたします。お手元に本年度行った、はあもにいフェスタのパンフレットを置いております。パンフレットの中面に、今回参加していただいた団体の名前、実施内容が一覧で記してあります。今年度は「いいね！イクメン、カジダン ～あなたのチカラで社会が変わる！～」をテーマに掲げ、11 月 29 日と 30 日に開催しました。

半年前から準備を進め、全体会、各委員会活動と、それぞれの団体に各方面で積極的に活動していただきました。その甲斐あってか、年々、参加団体と来場者数が増え、参加団体が 41 団体、来場者数 3,898 人と、非常に、にぎやかな催事となりました。

メーンの催事は、パパ料理研究家の滝村雅晴さんをお呼びしての講演会と、料理教室。「パパの読み聞かせ隊」のイベントも情報資料室で行いました。補足になりますが、「パパの読み聞かせ隊」から有志が集まって、育児について語るパパのネットワークができました。月 1 回、自分たちで作った料理を囲み、子育てについて意見や相談などを共有する場を作っています。講師の滝村さんが主宰する日本パパ料理協会ともつながり、月 1 回の集まりにはスカイプで東京と熊本を結んで、乾杯をするなど、ネットワークを強める活動もされています。はあもにいフェスタに話を戻させていただきますが、全館をまわって年齢を問わず楽しんでいただくクイズラリーも過去最高の参加者を記録しました。500 人を超える方の参加があったと聞いております。各参加団体は、それぞれのブースや部屋でワークショップや展示会、販売などご尽力いただきまして、自分たちの活動を広く伝えていくだけではなくて、参加団体同士のネットワークも広がっているようでした。

今年は、ボランティアの募集を行いました。はあもにいフェスタのボランティアスタッフとして募集をしたところ、近隣の大学生を中心に、社会人から高校生まで 22 名のご応募がありました。案内や各ブースの手伝い等本当にさまざまな部分で活躍していただき、参加団体、参加者の方、もちろん当館スタッフからも大変好評でした。アンケートや振り返りの報告をみても、今回ののはあもにいフェスタの満足度は、来場者からも参加団体からもとても高かったと考えております。反省点ももちろんございますので、そちらを取り入れて次年度もより良いフェスタを行っていきたくと考えております。

市民文化振興および交流の部分に関しましては、一階のギャラリーに市民文化活動の展示ということでこちらも継続、実施中でございます。本日来られたときにも色鮮やかな織物が飾ってあったのが目についたかと思いますが、今回、紙芝居、写真、絵、織物、さまざまな作品が寄せられて、市民の方々からも好評をいただいております。

それでは自主事業の報告をさせていただきます。

男女共同参画に関する標語・川柳の募集ですが、昨年の反省を生かし、テーマを設けて、募集期間も延長。先ほどワーク・ライフ・バランスで報告した尚絅短期大学の方々から作っていただくワークを取り入れたところ、200 を超える句が集まりました。「カジダン、イクメン、イクジイ」をテーマにした句として優秀賞に選ばれたのが、73 歳男性による「あらふしぎ カジダンしたら 妻かわる」。「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにした句は、18 歳女性の「両立が できる自分 かつこいい」が優秀賞として選出しました。いずれも、当館スタッフとはあもにいフェスタ参加団体の中から投票で決定しております。佳作を含む入賞作品は、館内および HP に掲載しております。年賀状にも使用しました。

ウィメンズカレッジは、審議会などへの女性の登用率アップ、女性の能力の発掘などを目的として、男女共同参画、審議会についてなど、多彩な講師陣から最新の情報を受けと

って、毎回難しかったとは思いますが課題の提出にも応じていただきました。最終日は、公開講座として一般の方々にも参加していただき、修了式も行いました。今回、28名の受講生の中で、修了者は24名。3月8日に開催するミモザフェスティバルにも2グループに分かれ、受講生自身が企画した催し物を実施していただきます。ミモザフェスティバルについては後ほどご報告をいたします。

前後いたしますが、6月、7月にかけては、男女共同参画パネル展を実施しました。前半はウィメンズカレッジの取り組みと、男女共同参画週間にて行った「女性の貧困」に関するパネル展示を行いました。後半は、その講演内容やワールドカフェで交わされた意見なども紹介し、少しでも身近な問題として感じていただく機会になったのではないのでしょうか。

本年、地域の連携事業もいくつか自主事業として行っておりますので、ご報告いたします。6月に当館多目的ホールにて、さえずり会の音楽鑑賞会を実施しました。初めて黒髪校区の方々とともに開催した会で、たくさんの方々にご参加いただきました。

その他、黒髪校区青少年健全育成協議会の集会も開催しております。

熊本市植木文化センターでは、北区女性団連絡協議会と推進室とが連携して、KKT くまもと県民テレビキャスター本橋馨さんを講師としてお呼びし、「地域を元気に」するために「男女共同参画」の視点がどのように必要なかを分かりやすく、楽しく、ユーモラスに、笑いを交えた内容で講演していただきました。

中央区においても、五福公民館にて3B体操の安藤智江子先生による「楽しく健康寿命UPをめざそう！ 体イキイキ3B体操」を実施しました。

東区では、今月末に東部公民館での「パパといっしょ！よんでよんでの会 ～新年は絵本で大笑い～」も実施予定です。地域との連携事業は、地域のニーズを探りつつ男女共同参画の啓発を進めていく必要があると考えておりますので、今後もいろいろな地域の方々との連携をし、ネットワークの強化をしていきたいと考えています。

その他の自主事業として、年末、地域交流をはかる餅つき会も実施しております。たくさんの方々の近隣の方々にご参加いただきました。

例年に引き続き、よんでよんでのかい、クマモト・ウーマンのラジオ放送、行政相談所の開設、先ほど課長の吉田からも報告がありました。コワーキングスペースの開放も継続して実施しております。男性の料理教室、カジダン料理倶楽部（全4回）も2月に最終回を実施する予定です。

当館の事業として、あと残すところ大きな事業は、3月の第3回ミモザフェスティバル。お手元に小さめのはがきサイズのチラシを用意しております。ブランド戦略コンサルタントの村尾隆介さんの講演会や、後ほど報告申し上げますクマモト・ウーマン100人女子会、先ほどご報告の中にありましたウィメンズカレッジ受講生の企画による講座、1階エントランスを使用したミモザマルシェを計画しております。詳しい内容はぜひお手元の冊子をご覧くださいまして、ご都合がつかましたならご参加いただければ誠に幸いです。

これまでの事業の報告は以上となりますが、この後、先ほど少しお伝えした、内閣府の「平成 26 年度地域における女性活躍推進モデル事業」の説明を、吉田稀世よりさせていただきます。

吉田：ここから、クマモト・ウーマン 100 人女子会の冊子化事業をご説明させていただきます。今回のクマモト・ウーマン冊子化事業ですが、内閣府 26 年度の地域における女性活躍推進モデル事業として採択されたものです。女性が活躍できる環境整備、地域の状況に合わせた女性活躍推進に向けた取り組みにつながるものということで、当館で企画しました。私どもの会館の情報資料室に、熊本に関わる素敵な 101 人が紹介してある「熊本 101 人」という冊子がございます。私たちもこれに続くものを作りたいと常々思っておりまして。RKK ラジオでクマモト・ウーマンというコーナーを初年度から作り、当館に関わる素敵な女性たちを紹介したり、女性活躍推進に取り組んでいる企業を紹介したりしていたんですけども、これをまとめたような冊子を作れないかと、今回内閣府へ提案いたしました。ロールモデル、メンターに関する事例収集、情報発信という事業になるのですが、今回の企画の目玉は、学生に主体的に関わってもらうことを企画の柱に据えたことです。

お手元にあるこのチラシ、「熊本の女子学生、社会人力アッププロジェクト」と題して、意欲のある女子学生にぜひ参加してもらいたいという思いで企画をしました。15 人の学生が「ぜひ参加したい」と言ってくれまして、加えて熊本大学で講義を持っている藤井館長の受講生たちも協力してくれることになり、女子学生 18 人、オブザーバーとして男子学生 9 名が参加してこの事業を動かしています。

私たちが選定した 51 名の素敵な女性たちに学生たちがインタビューをして、何度も原稿を書き直して、ようやく今冊子になろうかというところでございます。誌面のイメージがありますので少しご紹介したいと思います。審議会でも大変お世話になっております中山敏子先生、八幡彩子先生、坂口京子さん、小出史さんにも取材をさせていただいています。51 人の素敵な女性たちの話を私たちも身近で聞くことができましたし、学生が話を聞くということで、皆さんとても丁寧に、熱心に話をさせていただきました。約 1 時間のインタビューの時間だったんですけども、大幅に時間をオーバーする方もいらっしゃいました。取材が終わった後、学生とコンタクトを取っていろんなお話を聞かせてくださる方もいらっしゃいました。私たちにとっても大変意義のある事業になっていると思います。冊子の完成は 2 月中旬を予定しており、冊子が完成しましたら、学生たちも一緒にこの冊子の PR、広報活動に移っていきます。

先ほどご紹介した 3 月 8 日のミモザフェスティバルの中で、講演会の前に 100 人女子会と銘打って、クマモト・ウーマンの報告会を開催したいと思います。関わった学生たちがどういったことを学んだのか、どういったことを伝えたいと思って書いたのかということをご皆さんに報告して、冊子の完成報告会としたいと思っておりますので、ぜひ皆さんにも学生の頑張りを見届けていただければ、と思っております。よろしく願いいたします。

議長（清重会長）：以上で議題 2 の報告が終了しました。皆さんご意見はございますか。

中山委員：全般に対して私の意見を少し述べさせていただきたいと思います。初年度では子育て支援が主体だったと思うのですが、3年をもう大体終わるところで、男女共同参画を主体に、その中に子育て支援も入って、乳幼児から小中高大学生、社会人を対象に、男性女性とあらゆる分野において、これだけの事業をするっていうのは大変だったと思います。北九州のムーブや佐賀のアバンセに勝るとも劣らないような事業が、3年目はできてたんじゃないかなという気がいたしました。これだけなさるにはスタッフの方はもちろんですが、参加者が来ないことには成り立ちませんので、参加者の方がすごく理解があったと思います。さらに事業や講座をした後に、就活にまで結びつけることができると、若い人が飛び込んでくるんじゃないかなという気もしました。

あと2年ですけれども、本当にこの事業がますます伸びていって、育ってほしいなと思います。私、こういうところは地域とともに育つのではないかと思っています。地域の方を大事にしておられるということもよく分かりましたし、来年度、再来年度の事業が楽しみです。

そして、フェスタ本当にご苦労さまでした。私はいつも最初から出ておりますけれども、本当に皆さんがお客さまのために走り回っている姿を見てびっくりしましたし、小さい子どもが喜んでわいわい騒いで、久しぶりに小さい子の声も聞きましたし、楽しゅうございました。本当に皆さん、スタッフの方、お疲れでございました。

議長（清重会長）：ありがとうございました。大変積極的な評価をいただきました。他に報告、多岐に渡りましたけれども、一言コメントをいただければと思いますが。

伊藤委員：数多くの企画運営をされて、本当にすごいと思います。ただ、私を感じましたのは、地元がこのことが浸透していないのではないかということです。毎月、はあもにい通信を送っていただいて、これを黒髪校区の自治会に回覧しています。ところが、その効果が今一つ感じられないというのが正直な感想です。

私の町内では、およそ700世帯近くある町内に、わずか小学生が23名しかおりません。しかし一つのマンションができたおかげで小学生が増えたようです。そこで好評だったのが、はあもにいで行われた「餅つき会」。地元がもうちょっと燃えるようなことを私も考えたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

議長（清重会長）：どうもありがとうございます。要請をするだけじゃなくて、この地区に住む一市民としてできることを考えられている姿勢に感心しました。私たちも見習うべきだと思いますが、八幡先生。

八幡委員：はい。もう皆さんおっしゃった通りなんですけれども、非常に気持ちよく会館も使わせていただいています。提案性、企画力のある催事もあっていますね。こういう委員をしていると役得だなと思うのが、そういうご案内を送っていただき情報もいち早くいただいていることです。本当は毎回参加したいんですけど、なかなか都合もあるものですから、それが残念です。引き続き、このような企画力のあるご提案を期待したいと思います。

私から二つ申し上げさせてください。最後に吉田さんから報告があった100人女子会の企画ですね。私もインタビューしていただいたのですが、次世代の男女共同参画を担う学生を育てる意味で、内閣府の事業として採択されているという意味で、非常に注目すべき事業だったのだらうと思います。ぜひこのような企画を今後も引き続きできれば、と思った次第です。

私もこの委員をさせていただき、会館と関わらせていただいている中で、スタッフに女性の方が何人もいらっしゃって、おそらくスタッフ力というか、事業を担われる力も随分育っておられるんだらうなと常々感じております。館長を始めとした皆様のご指導の元で、ぜひそういう場を、大学生が、例えばインターンシップとか、そういう形で学ぶ機会をこれからも充実していただければ、と思います。

実は熊大の場合は文科省の事業として、女性研究者を育てる事業を採択していただいています。熊本県下の大学と連携しているのですが、研究者を育てることが目的なので、どうしても理系分野中心で、もれている女子学生がたくさんいるのが現状です。例えば尚綱、熊大でも文系学生向けの部分が、ちょっと力が及んでいない、と感じていたところでした。今回この事業で取り組んでいただいたことを、大学の関係者としても非常に感謝したいと思います。

最後に一つだけ質問ですが、事業の報告の中で両立支援という項目がありますね。両立支援というと仕事と家庭生活の両立をするために、例えばワーク・ライフ・バランスをするためのいろんな支援を促進するための事業というイメージがあるんですが、今回ご報告いただいた内容は、家庭生活の支援という位置付けだったのかと感じました。どのような位置付けで両立支援を捉えておられるのかをご質問させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

議長（清重会長）：先生、ありがとうございます。では、途中ですが、今のご質問がありましたので、お答えがあればよろしくお願いたします。

反後：両立支援事業は市の指定事業ということで、仕様書に沿って企画立案、運営しております。なお、仕様書には「親と子、父と子の料理教室を年に2回以上する。夏休みクリスマス等の親と子の触れ合いに関する催しを年2回以上する」と記載されております。

八幡委員：つまり、市が両立支援の内容について指定をされていると。内容をもうちょっと工夫するのであれば、熊本市へ申し出なければいけないということなのですね。

藤川室長：来年度は4年目ということで、仕様書の見直しをするほか、熊本市としての要望をその都度伝えていく必要があると感じています。27年度に向けて中身の精査や見直しをしていっているところです。

八幡委員：はい、ありがとうございます。

議長（清重会長）：どうも、ご答弁ありがとうございました。他にどうでしょうか。

重村委員：藤井館長が、一番にこう言われましたね。「はあもにいのスタッフ一人ひとりが、自分自身で判断して行動できるようになってきました」と。全般の説明からも、その

様子が伝わってきました。ますます成功されることをお祈り申し上げます。今後ともしっかり頑張ってくださいと思っています。よろしくお願いします。

議長（清重会長）：どうもありがとうございました。私からもちょっと短く。

大変いい仕事をしてくださってうれしい限りです。報告書に目を通して、一つ一つの事業に振り返りをして、数字のデータのみならず、これはどういう意味があったのか、どういう反省点があるかということを、簡にして要を得た報告で、読ませていただきました。

それを見ますと、事業と事業結びつけることで、膨らましていくという視点も持ってらっしゃるんですね。例えば、「女性の貧困」と「隣人」を関連付けることによって膨らんだという感想も述べてらっしゃると思います。

また、これは何と言っても地域だなという伊藤さんの持論でいらっしゃるんですけども、さえずり会は地域にいる高齢者でめったに外出のチャンスのない方へ、人々と交わるチャンスを提供できた。まさしく地域ならではのことも書いてらっしゃるんですね。こういう視点はやっぱりとても大事なことで、発見だし、これからの方向を指し示しているものじゃないかと思います。

もう一つ。受講生はさまざまですけれども、中には単なる受け身で終わらずに、その人たちが主体的にチームを作ったというケースも伺いました。これはテブ起しの講座ですね。こういうこともすごく大事だと思います。

参加する人たちが自分もこの、はあもにいを支えていくメンバーだという当事者意識を持ち始めていることに関心を持ちました。こういった変化が生まれることで、ますますはあもにいが地域をはじめ、外へ発信されて、働きが評価されてくるんじゃないかなと期待しています。ただ実施するだけでなく、振り返りやその対策もきちんとなされていることを実感し、とてもうれしく思いました。

最後に手元にある資料とプレゼンテーションの資料の順序がかみ合わず、分かりづらい印象を受けました。中には、事業のナンバリングが間違っているものもあったようです。以後、気を付けていただきたい点です。

中山委員：先ほど、八幡先生が両立支援について発言されました。内閣府が言っている両立支援は家庭と地域、家庭と職場だろうと思うのですが、その点を今後ちょっとお考えいただけたらと思います。

また、図解の18ページの色がちょっと濃すぎて、数字が見えづらい印象を受けました。もうちょっと色の薄いのにしていただけたら良いのではないかという気がいたしました。以上でございます。

議長（清重会長）：ありがとうございました。何か答弁がありますか。

反後：審議会の資料とプレゼンテーションの資料が合っていないと見にくい思いをさせてしまいまして、大変失礼いたしました。

アンケートの図に関しましても、せっかくですのでちゃんと見ていただけるようなものに、次回より気を付けて作らせていただきたいと思います。どうぞ、今後ともよろしくお願ひします。

議長（清重会長）：どうもありがとうございます。非常にいい仕事ですから、ちょっと一っだけ改善という意味で申しあげました。では、議題3に移らせていただきます。よろしくお願ひいたします。

<議題3 平成27年度事業の編成方針について>

反後：はい。それでは、引き続き平成27年度のはあもにい主催事業の編成方針および事業計画について説明させていただきたいと思ひます。資料29ページをご覧ください。今日お配りさせていただいた31-1からの分が別添でついておりますが、市の指定事業に関しましてはこちらをご覧ください。

初めに26年度全体を振り返りますと、25年度の反省を基に組み立てた事業が集客も安定し、アンケートを見ても事業の評価はおおむね良好でした。2年目を迎えたウィメンズカレッジにつきましては、参加者の中盤での減少が少なくなり、昨年の課題はクリアできたかと思っております。新たに、先ほど説明させていただきました内閣府の助成事業として、クマモト・ウーマン冊子化事業を実施しております。これにより、今まで少なかった学生と接点が生まれました。また講座の一つ一つにつきましては、さらに内容を深めていくという点でまだ課題が残りますが、残り2年間の指定管理期間における目標を再検討し、講座修了後の動きや展開につなげていきたいと思っております。

平成26年度の開催講座の方向性を振り返って、今年度どうであったかは、29～30ページに記載の通りでございます。冒頭、藤井からも申しあげましたが、(3)のテレワーク推進事業はプロジェクトチームを今年度設置したのですが、情報収集に留まってしまいまして、なかなか稼働ができなかったところもでございます。来年度に向けて、専門家の意見・アドバイスも取り入れながら、コワーキングスペースの活用も含めてテレワーク推進事業の全体を見直す必要があると考えております。

これらの26年度の振り返りを踏まえまして、31ページに来年度、平成27年度の講座の方向性を上げております。ご覧ください。来年度、平成27年度の方向性につきましては7項目挙げております。

まず、女性の活躍推進。2年間実施してきたウィメンズカレッジを今年度も開催する予定です。その受講生を中心にしたネットワークの構築を目的とします。2番目にクマモト・ウーマン冊子化事業、これから発展した形の次世代育成事業の実施。3番目として企業への積極的な働きかけ。この3点を踏まえまして、女性の活躍推進に注力したいと思っております。

2番目は、テレワークの推進。来年度につきましては専門家のアドバイスを受け、事業内容を再検討すること。2番目として、コワーキングスペースの活用についても、再検討

したうえで必要な環境を整え、周知の広報活動を行う。3番目としては、他機関との連携を取りながら啓発セミナーや講演会を実施するというように考えております。テレワークは、中小企業などに対して、国から助成金も出ておりますので、こういった情報を周知したり、企業、経済界と連携して、企業の取り組み、企業に対するアプローチもできたらと考えております。

3番目は、若年層に向けた男女共同参画の啓発。1番目には中学生、高校生、大学生のインターンシップやボランティアの積極的な受け入れを通し、会館の果たす役割への理解を促す。2番目として、学生を対象にした内容の講座を実施し、啓発につなげていく。男女共同参画に関する基本的な講座や、コミュニケーション講座、男女共同参画の視点からの就職準備講座など、学生を対象にした内容の講座を実施していきたいと思っております。

4番目として男女共同参画の視点からの防災。来年度初めて取り掛かることにしています。なかなか当館で取り組めなかった課題です。まず先進地の事例を学びながら、地域との連携講座の実施を目指す。そして、地域団体とのネットワークの強化を図っていきます。昨日も職員を対象に、熊本市の防災体制について研修などもしまして、男女共同参画の視点からの防災は、まだ取り組めなかった部分ですので、これに関して来年度、地域と連携して実施していきたいと思っております。

5番目、男性にとっての男女共同参画推進。今年度の事業は、はあもにいフェスタのテーマでもそうでしたが、男性にとっての男女共同参画がいろいろなところでテーマとして出ておりました。次年度もこれを引き継ぎまして、パパの読み聞かせ隊やカジダン料理倶楽部などがより自主的な取り組みにつながるよう支援していきたいと思っております。

6番目は、貧困、引きこもりなど、生きづらさを抱える女性の自立支援。こちらもなかなか取り組めなかった部分ですが、はあもにい総合相談室、ファミリー・サポート・センター（熊本）、そしてハローワークなどとの連携による講座を想定し、まずは情報収集といった準備を行い、具体的にはあもにいが何ができるのかを探っていくところから始めていきたいと思っております。

7番目、市民団体との連携の強化。市民団体の連携をさらに強化し、はあもにいを拠点として活動する市民団体を増やし、男女共同参画拠点としてのはあもにいの機能を強化します。先ほどもはあもにいフェスタのご紹介をさせていただきましたが、はあもにいフェスタの参加団体が増えています。こういった市民団体にもっと、はあもにいを利用していただき、はあもにいの事業にも参加していただくことで、私たちだけでは手の届かないところまでより広く、はあもにいの活動を広げていくことができるのではと考えています。

以上この7つを重点項目として、来年度事業の実施にあたっていきたいと思っております。

次は、それぞれ分野ごとに説明をさせていただきたいと思っております。

31-1の資料は、本日別添でお配りしております。そちらをご覧ください。まず、男女共同参画に関する基本的な講座についてです。

この分野は、男女共同参画週間での講座、はあもにいフェスタでの講演会、ミモザフェスティバルでの講演会といった大人数が集まる場での啓発の講座に加え、これまで自主事業として実施してきた、はあもにいウィメンズカレッジも男女共同参画に関する基本的な講座に入れ込み、その中で公開講座を実施したいと考えております。

昨年度、今年度と2回実施いたしまして、はあもにいウィメンズカレッジも講座の修了生が出ております。その講座の修了生とのネットワークを意識して、フォローアップの講座も実施したいと考えております。

講座の5番目としては、寸劇、ゲーム等を取り入れた小中学生向けのプログラムを作成したいと考えております。これについては、市民団体とも連携してご協力をいただきたいと考えております。今年度まではあもにい探検隊を実施していたのですが、もう一度その内容を見つめ直して、より男女共同参画の内容を伝えられるようなプログラムを作りたいと考えております。

ワーク・ライフ・バランスの推進に関する講座は、商工会議所や経済団体などと連携して、企業への働きかけをしたいと考えております。

もう一つは、大学生向けのワーク・ライフ・バランス講座。例えば崇城大学のマンガ学科と連携するなどし、はあもにいから発信をしていきたいと考えております。

これからの男性の生き方に関する講座に関しては、今年度の流れを引き継ぎたいと思います。一つはパパの読み聞かせ隊。これは子育て世代の男性に向けた講座で、子育てパパのネットワーク作りも目指しております。もう一つはカジダン料理倶楽部。定年後もしくは定年前ぐらいの男性をターゲットにした料理教室で、現在では本当に料理好きな方が集まっていますが、もう一步、今度は社会貢献や、社会参画につながるような料理教室にしていけたらと考えております。

次に、女性に対する暴力防止に関する講座です。若年層向けにデートDV講座を考えております。もう一つは、はあもにい総合相談室と連携して、DVに関連した講座を実施できたらと考えております。

31-2をご覧ください。市民グループ企画につきましては現在募集中です。

社会参画支援事業の項目には、資格取得講座が7講座と、起業家支援に関する講座、再就職に関する講座、キャリアアップに関する講座、コミュニケーションスキルアップに関する講座があります。これらを一括りに考えまして、自分らしく自立するためにいろんなやり方があることを提示していきたいと考えております。今まで資格取得講座は単体で実施している印象があったと思います。それをもうちょっと広げて、自分らしく自立するための講座をひとつくくりと考え、横断的にいろんな講座が受けられるようなスケジューリングなどをしていきたいと考えております。

資格取得講座の中には、本当に就職につながる講座を目指すということと、参加者のモチベーションも上げて就職活動にも役立てていただきたいという目的で、全資格取得講座の初回に、再就職準備とコミュニケーションに関する講座をカリキュラムに入れ込もうと

思っております。今までは、受講した後に就職活動につながっていないケースが多かったのですが、講座修了後も検定の結果や、就職活動を始められたかどうかなど、フォローして情報を集めていきたいと考えております。

資格取得講座では、簿記や調剤事務、医療事務、ワード、エクセル、MFAを今まで実施していましたが、eラーニングによる資格取得講座を来年度行ってみたいと考えています。これは通常の講座の時間設定では来られないような方にも学べる場を提供することを考えています。

起業家支援に関する講座です。今年度はリスクを小さくして始めるスモールスタートという起業家支援の講座を実施しました。自分のできることから始めてみようというこの講座が非常に好評だったこともあり、具体的な講座は定まっていますが、次年度もいつか起業したいという方に向けて、ボトムアップを狙った起業支援講座にしたいと考えております。

再就職に関する講座は、カフェスタイルで、就職をしたいという方が気楽にはあもにいいに来て、ちょっと心配かな、と思っていることなどの話しよくができるような講座をしたいと思っております。

能力開発事業には、キャリアアップに関する講座と、コミュニケーションスキルアップに関する講座があります。来年度は、どちらもコミュニケーションに重点を置いて講座を実施したいと思っております。

コミュニケーションスキルアップに関する講座は、コミュニケーションに関してちょっと不安を持っている、苦手意識を持っているような方に向けた講座と、大学生向けのコミュニケーションの基礎講座を実施したいと考えております。

キャリアアップに関する講座は、さらにもうワンステップアップし、よりコミュニケーションのスキルをアップするような内容として、プレゼンテーション講座とファシリテーション講座を考えております。

これらの就職に関する講座を一つ一つのファシリテーション講座やコミュニケーション講座で切ってしまうのではなく、全体を見て、資格取得講座を受けた方が、今度は、「じゃあ次はコミュニケーションの講座も受けようか」とか、「お仕事カフェに行こうか」などとつながるような講座のスケジューリングをしていきたいと考えております。

両立支援講座は、「親と子、父と子の料理教室」「夏休み、クリスマス等の親子のふれあいに関する催し」ということで、先ほどお話もありましたが内容が指定されております。どちらも来年度は、男性の男女共同参画に注力して講座を組み立てて、パパと子の料理教室、パパと子どもとの運動などの講座を実施したいと思っております。

各区との連携事業も実施しておりますので、例えば各区の公民館などからの要請、リクエストなどございましたら、それをまた各区への出前事業として、実施したいと考えております。この際には、少しでも男女共同参画の話を加えた料理教室や、親子の触れ合いの講座に組み立てていきたいと考えております。

続いて、はあもにいフェスタ。来年度は11月28日と29日、2日間実施する予定です。今年度も非常に盛況だったのですが、来年度もさらに団体が増えるかもしれないと予想しております。各団体の交流をさらに深め、団体同士で何か一緒にできる、などを促進していければ、と思っております。

今年度から加えましたボランティア。ボランティアの方がいろんなところで活躍していただきましたので、ボランティアも引き続き募集する予定でございます。

市民グループの活動支援。市民文化の振興および交流につきましては、引き続きグループ支援、また、私のギャラリーを実施する予定です。

自主事業につきましては、まず、「もっと知りたい女（ワタシ）の体 ～上手に私の体と付き合うために～」。ウィメンズセンター大阪さんとの共催を予定しております。こちらもまだ当館の方で取り組めていなかった分野ですが、女性の一生の体の変化を知るとともに、女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性と生殖に関する健康とか、性の自己決定権といった、受け身になってしまう女性がすごく多いんじゃないかと思うんですが、自分で決めるということ、そして、自分自身の心のセルフケアを学ぶような講座を一つ実施したいと考えております。

その他、来年度につきましては、ミモザフェスティバルは3月8日で行っていますが、来年度は平日にあたりますので、3月5日土曜日に実施を考えています。

音声起こし講座。これはテレワーク推進事業とも関わりがありますので、これも引き続き実施していきたいと思っております。

男女共同参画の視点から考える防災に関する事業。来年度の重点項目に挙げているものです。今まで実施できていなかったところですので、どのように事業として展開できるのか、地域との連結が不可欠になってきますので、探っていきたいと思っております。

クマモト・ウーマンに関しては、ラジオも引き続き実施する予定です。

最後は、テレワークの推進事業ですね。来年度につきましては、組み立てを考えていきたいと思っております。

以上、簡単でございますが、来年度の方針、計画についてご説明申し上げました。

議長（清重会長）：ありがとうございました。ご質問、ご発言があればどうぞ。

八幡委員：事業の内容は例年通りですね。スタッフの方が検討されて、非常に企画力のある内容になっていると思えました。私は熊本市の男女共同参画会議も関わっております。以前であれば会館の取り組みについて少しは熊本市の職員の理解があったかと思えます。しかし、指定管理になってからは、おそらく独立した事業となっているのではないのでしょうか。例えば、熊本市の男女共同参画会議でこれだけの取り組みをはあもにいで企画されているということを、もっと伝えていってはどうでしょうか。この男女共同参画会議には、いろんな部署の代表の方が30名くらい関わっていらっしゃると思います。そういう方たちに発信し、連携が進んでいくと各課とのタイアップが可能になり、さらに事業が充実するののかも

しれないと感じました。熊本市での行政スタッフが集まる会議で5分でもPRするような機会があると非常にいいのではないかなと、かねてから思っているところです。

昨年はその会議の中で事業報告書の冊子を会議資料としていただきましたが、やはりプレゼンという形式が見ていて楽しいので、工夫していただくとありがたく思います。よろしくをお願いします。

議長（清重会長）：ご提案がありましたが、何かレスポンスがあればどうぞ、はい。

藤川室長：以前からそういったお話も常々伺っているところではありますが、参画会議も審議する部分が多く、なかなかそういったところにはつながっていかなかったかもしれません。毎回館長にも出席していただいておりますし、はあもにいの事業の内容については職員にも理解はしていただいていると個人的には思っているのですが、行き渡っていない点もあるかもしれません。現状としては、男女共同参画推進に関連のあるところ、例えば人権推進総室や人事課などと協力して連携していくといったことも取り組んでおります。ただし教育委員会などは、はあもにいの事業の内容をうまく把握できていないのかなというのは実情だと思います。今回このようなお話をいただきましたので、少しお時間が取れば、そういった部分も紹介ができれば、と思っております。

議長（清重会長）：ありがとうございます。他にどうでしょうか。はい、中山さん、どうぞ。

中山委員：子育て支援課っていうのは参加しておられますか。

藤川室長：参加しております。

中山委員：それでは、ここの子育て支援に関する取り組みについてはご存じですね。

藤川室長：はい。

中山委員：ありがとうございます。

議長（清重会長）：他にいかがでしょうか。はい、よろしいですか？

坂口：ありがとうございます。昨年に比べてチラシの工夫がされてると思えました。これを見て、「面白そうだな、行きたいな」というイメージが湧くし、内容によって雰囲気を変えてらっしゃるところに工夫をすごく感じています。とても重要なことだと感じました。

防災の部分に関して、子ども向けに公園で開催された「ぼうさい忍者修行」に参加したことがあって、それは体験型でとても面白く、人も集まりやすく防災を感じることができましたので、こういったことも参考にしてください。

あと、講座の資格取得がすごく充実しているけれども、その後がつながらないという部分についてです。とりあえず何をしていいかわからないけど資格を取ってみようという受講者の場合、その後にその方がもう一歩進んでいくのはまだハードルが高いとしても、例えば、はあもにいの講座の「ボランティア」に参加できるような仕組みをつくるなどして、「同じ世代の人がこんなことを頑張ってる」、「同じ状況の人がこんなこともできるんだ」という気づきになるのではないのでしょうか。人に触れることで、あと一歩の勇気が出るの

ではないかと思しますので、ぜひ資格取得された方の「ボランティア」のおすすめをしたいです。それによって社会参画の一步一步が含まれていくのではないかと思います。

それから、クマモト・ウーマン冊子化事業は、すごく良い取り組みと思いました。今度は取材した女子学生が取材されるような、自分がロールモデルの女性から学んだことを、今度は女性だけに限らず、高校生向けに、自分はこのように学んでこういう女性たちがいたんだよといったことを、受けたものをまた次の人に渡していただくようなことは、どちらにとってもいいんじゃないかなと思ったので、そういう企画があればと思いました。以上です。

議長（清重会長）：ありがとうございます。はい、伊藤さん。

伊藤議員：良い企画を地域にどのようにPRしていくかが問題と感じました。地域は案外こういう取り組みがあっているってことを全く分かっておりません。だから、企画書ではなくて簡単なメモを一覧表にして渡すとか、そういうふうにして地域に啓発活動をもうちよっと盛んにしていただきたいと思います。

地域は今、高齢化社会です。われわれのところでも70歳以上が6割くらい占めています。平成50年になりますと日本の総人口は8千万になります。そうなる前に地域の連携を強めておかないと、いざ何かあったときは間に合いません。以前、校区町内で本当に悲惨な状態が起きたんです。しかし常に連携を取っていたので大事には至りませんでした。これから地域にとって非常に厳しい時代が来ます。ものすごくいい企画をされていますから、地域と連携を密にして、情報を発信していかれることを期待します。よろしく願いしておきます。

議長（清重会長）：ありがとうございます。確かに参加者も地域別に見ますと、30%が中央区民と出ていますので、まずそこからしっかりやろうということですね。いかがでしょうか。

では今年も4年目を迎えるにあたり、館長がおっしゃったように、一歩進める、チャレンジ、民間としての力、特色を発揮していきたいという志を、私たちがサポートして実現するように、決意をいたしましょう。

以上が議題3でした。さて今度、会館の副館長加島さんと山田さんが異動されると伺っております。皆さん一言ずつどうぞ。

議題4 その他

加島：ありがとうございます。3年間、私ども全く右も左も分からないところから入らせていただきましたが、いい勉強をさせていただきました。いろんな事業が、今充実してきております。稼働率も上がってきており、貸館という部分でも多くのお客様に利用いただけてきています。

熊本市が補助金を出しているコンサートや演劇の事業は、25年度のデータによると、34事業、実施されているようですが、そのうちの11事業がはあもにいを利用されているよう

です。同じぐらいの事業が森都心プラザで行われていることを考えると、意外と市民の方たちが使っていただいている、非常に市民に密着した施設であると感じております。

とは言っても、実ははあもにいではできて25年ほど経っています。崇城大学市民ホールが一番古いと思いますが、そちらは改築をだいぶやってきているようです。全く手の入っていない施設というところでは、はあもにいが一番古く今なっているようです。今日入っていらっしゃるときに工事をしているのをご覧になったかと思いますが、今回のトイレ工事で、ほとんどなかった洋式トイレが少し増える予定です。

しかし、この25年の間はかなり経年劣化も始まっていますし、アナログからデジタルへいろいろな機器が変わってきていまして、時代に合わなくなっている部分もかなりあります。ぜひ先生方も含めまして、今後ここがもっと発展できるようにご協力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

私は今度、経営者協会に参ります。いわゆる人事労務関係の経済団体ということで、厚生労働省とつながり深いところになります。今後の労働の在り方というのを話し合っていかなきゃいけないところです。今ここでもうたわれているような、女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスなど、地方の小さなところでもできるように、いろんな知恵を絞りながら取り組んでいきたいと考えております。また、それを推進していくお手伝いをしていかなきゃいけないと今、感じているところでございます。

議長（清重会長）：それでは、山田さんお願いします。

山田：管理運営者ということで最初は、施設を運営することで精いっぱいだった面もありました。しかし、男女共同参画を推進する拠点施設として館長の藤井がリーダーシップを取り、ここで報告してきたような事業を進めてまいりました。スタッフもいいメンバーが揃っており、年々良い事業を展開できてきたのではないかと思います。

私も知らないなりに事業に関わっていきまして、今、はあもにいという名前が、3年前に比べるとかなり浸透してきたのではないかと思います。ただし、今でもまだ「女性センターでしょう」と言われたり、「どんなことやってるの」と言われたりしています。事業をもっと深めていくこと、またはあもにいの名前や事業の知名度を上げていくことによって、必要な人のところにこういった講座や事業の情報が伝わっていくのではないかと考えておりますし、これから先はもっともっとすごくなっていくのではないかと考えています。

私はグランメッセに異動になります。はあもにいで仕事をしてきてたくさんの方々とお知り合いになることができました。そしてこれから先もはあもにいに関係される方々と付き合っていきたいと思っています。ありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願いいたします。

議長（清重会長）：ありがとうございました。3年間私ども審議委員として、皆さんと一緒に働いたことをとても感謝しています。まだ2カ月あります。3月31日まで忠誠心を失うことなく、有終の美を飾っていただきたいと思います。私どももサポートします。どうも本当にありがとうございました。

中山委員：加島さんが今度、経営者協会においでになるということで、実は、熊本県の男女共同参画推進の加速化会議（正しくは「熊本県女性の社会参画加速化会議」）に経営者協会の会長が入ってらっしゃいますので、ぜひ加島さん、今度男女共同参画に力を入れてくださるように、改めてお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

議長（清重会長）：激励の言葉もありました。それではちょうど時間でございます。閉会のお言葉をいただきます。

加島：本当にありがとうございました。重複しますが、3年間非常に思い出深く、皆さまのおかげでここまでやってこられたと思っております。あと2カ月ぐらいですけど、三つぐらい団体と関わっておりますので週に3日か4日ぐらい来ることになるかもしれません。今後ともよろしくをお願いいたします。

来年も充実した事業が増えていくよう、稼働率も上がり経営的にも成り立っていくよう、外からではございますがサポートしていきたいと思っています。はあもにいが成り立っているのも、ここに集われた皆さまのお力があるからこそでございますので、どうぞ、今後のはあもにいをかわいがっていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

かわいがるためには健康ではないといけません。まだしばらく寒さが続くと思いますが、皆さま方、お体に気を付けて日々の業務にまい進していただければと思います。では、これを持ちまして、今回の審議会を締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長（清重会長）：皆さまどうもありがとうございました。館長以下スタッフの皆さんのご尽力にまたあらためて感謝いたします。どうもありがとうございました。

進行（山田）：ありがとうございました。皆さまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。以上にて、平成26年度第2回はあもにい運営審議会を閉会いたします。ありがとうございました。